



公益社団法人 日本山岳会

宮崎支部報

第72号



山仲間合同の登山道整備と植樹

小谷登山道周辺の植樹を終えて

3月21日快晴、この日の双石山・塩鶴登山道整備と植樹の案内に宮崎市山岳協会に所属する宮崎山岳会・日向わらじ会・宮崎山楽会・宮崎市役所山岳部・九州電力山岳部・JAC宮崎支部の各団体の有志に加え双石木曜会・一般参加者を含め60余名の方が参集された。午前中から20度を超える陽気の中、南国の里山はシイ、カシ、タブなどの緑濃い照葉樹の中にヤマザクラの淡い紅色がひとときわ映え、足許にはスマレ、キランソウ、ヘビイチゴ、サツマイナモリソウなどの可憐な草花が咲いている。参加者の明るい声に静かな山が一気に華やぎ、真に「山笑う」の風情である。

作業は先ず塩鶴登山口から各々が鎌・山鋏・ツルハシ・草刈り機を手に入山する。昔から使われていたこの登山道は最近では小谷登山口に主流が移った関係で荒れていた。しかし、第36回全国支部懇談会でこのルートを使うということに賛同された地元有志のご好意により整備が進んでおり、この日は雑草の刈り取りなどの軽い作業で終わった。

続いて小谷登山道の植樹を行った。この登山道は入口近くから樹齢50-60年ほどの飢肥杉林と手つかずの原生林が覆い鬱蒼とした林床に清らかな小さな流れがあり、これを右に左に渡りながら行く森林浴に相応しいコースであった。しかし、重機による無慈悲な伐採作業により殺伐とした無残な姿になって

しまった。

支部長・荒武 八起

これを憂いた方々により植樹の機運が高まり今日の多団体共同による植樹となったのである。参加者は森林管理署の小川氏から植え方の説明を聞いた後、目印のテープで指定されている植栽場所に山桜やモミジの苗木を思いを込めて植え付けた。これらの幼木が雑草に負けずに育つには最低でも数年は手入れが必要であろうが、登山道が四季折々の装いで彩られ登山者を迎える日を楽しみに皆で見守っていきたいものである。

作業後は岳人の遊び場として使わせていただいている作業小屋において、女性会員手作りの豚汁とおにぎりの昼食となった。故郷の山の保護・安全登山の指導に尽力されている有志への感謝と今日の奉仕作業に対するJAC宮崎支部としての心ばかりのおもてなしである。新型コロナウイルスの脅威が問題となっている中であったが、程よい春風と太陽の下、適当なものに腰を下ろし、キャンプのような雰囲気の中でいただく昼食はとても美味しかった。

宮崎県山岳スポーツライミング連盟会長兼宮崎市山岳協会事務局長の松崎氏・地元の渡辺氏・川越氏をはじめ多くの方々のご協力、そして異なる所属団体の山仲間が垣根を超えて助け合う素晴らしさと爽やかさが身に染みた一日であった。

令和2年度宮崎支部総会について(報告)

宮崎支部総会は、令和2年4月18日、宮崎市中央公民館で開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の防御対策のため書面表決とし、その結果を4月26日役員会において取り纏めたので報告する。

書面表決期間：令和2年4月11日～18日

書面表決数：会員45名中44名

第一号議案

1. 令和元年度支部事業報告
2. 令和元年度支部収支決算報告
3. 会計監査報告

第二号議案

1. 令和2年度支部事業計画案

定例登山研究会の開催曜日と時間について事前にアンケート方式で意見を求めた。それを集約した結果、昼間ないし夕方の早い時間帯の開催を希望する意見

もあったが、平日勤務の会員からの要望もあり折衷案として、これまでより1時間早めの18時開始として提案した。

定例山行についても、事前にアンケートで意見を聴取した。その支部結果を山行委員会で集約し提案した。

2. 令和2年度収支予算案

収入予定額が前年度よりも少なくなり、予算的に厳しいことが予想されるとのコメント付きで提案した。

第三号議案

支部役員の一部改選

新事務局長として、日高研二副支部長が兼務することを提案した。

以上、第一号議案から第三号議案の全てについて、賛成多数により可決された。

令和2年度支部定例山行等計画

令和2年度支部事業計画

事業名	開催日	備考
支部事業		
令和2年度宮崎支部総会	2020年4月18日	書面表決
定例支部役員・委員長会議	原則 毎月第1木曜日 17時-18時	宮崎市中央公民館
定例登山研究会	原則 毎月第1木曜日 18時-20時 ただし4月は総会日	宮崎市中央公民館
定例山行	別紙参照	
ときめき家族登山	日程未定	
山の日に関する行事	日程未定	
支部報発行	年4回発行 (4月、7月、10月、1月)	
第36回宮崎ウエストン祭	2020年11月3日	高千穂町
第36回諸塚山開き	2021年3月1日	諸塚村
自然保護活動	2020年7月5日、2021年2月21日	
宮崎市中央公民館まつり	日程未定	宮崎市中央公民館
家庭裁判所委託登山	日程未定	
全国事業および他支部との事業		
全国支部懇談会	2020年5月16-17日 → 2020年10月3-4日に延期	宮崎支部主管
日本山岳会総会	2020年6月20日	東京都
全国支部長・事務局長会議	2020年9月26-27日	東京都
全国支部連絡会議	2020年12月5日	東京都
年次晩餐会	2020年12月5日	東京都
東九州支部60周年記念	2020年10月24日	大分県
九州5支部懇談会	日程未定	
熊本/宮崎支部交流会	日程未定	

月 日	曜日	山座名・行事名等	備考(予定)
4月25日	土	新入会員歓迎山行 遠見場山(245m)島野浦	コロナウイルス、中止
5月10日	日	定例山行 白鳥山(1638m)・時雨山(1546m)	コロナウイルス、中止
5月23日	土	定例山行 大幡池・大幡山(1352m)	
6月7日	日	定例山行 韓国岳(1700m)	
6月13日	土	定例山行 斟鉢山(500m)	
7月12日	日	定例山行 えびの岳(1292m)	自然保護活動 7月5日
7月26日	日	ときめき家族登山 猪八重溪谷	
8月10日	月・祝日	山の日・市山岳協会と共催 双石山(509m)	
8月15日	土	定例山行 狗瑠孫峽散策	
9月6日	日	定例山行 尾鈴山(1405m)・滝等散策	
9月19日	土	塩鶴登山道整備 双石山(509m)	
10月4日	日	全国支部懇談会記念山行 双石山(509m)	全国支部懇談会 10月3-4日
10月24日-25日	土・日	東九州支部60周年	
11月2日-3日	月・祝日	第36回宮崎ウエストン祭 記念登山(祖母周辺)	公民館まつり 家裁委託登山
11月21日	土	定例山行 白岩山・向坂山(1684m)	
11月未定	未定	双石山(家裁委託登山)	
12月12日	土	清掃登山 双石山周辺	支部晩餐会
1月10日	日	定例山行(新年山行) 小松山(988m)	
1月16日	土	定例山行 薩摩街道(岩屋野～和石)	
2月7日	日	定例山行 釈迦ヶ岳(830m)	自然保護活動 2月21日
2月20日	土	定例山行 仰島帽子岳(1301m)	
2月28日- 3月1日	日・月	山開き 諸塚山(1341m)	
3月14日	日	山開き 双石山	

中止を余儀なくされた第36回全国支部懇談会 in 宮崎

支部長 荒武 八起

2020年5月16-17日を開催日として準備を進めてきた第36回全国支部懇談会は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、10月3-4日に延期した。一度は終息の兆しがあるやに見えた一日あたりの新規感染者数は6月半ばから再び増えはじめた。このような状況から10月開催も断念せざるを得ないと判断し、会長および支部事業委員会の承認を得た上で中止を決定した。ここに約1年半にわたる支部懇の準備に関する経緯等を記す。

第36回全国支部懇談会を担当した経緯

2018年7月21-22日、北海道大雪山系で開催された第34回全国支部懇談会(北海道支部担当)の懇親会の席上において、支部事業委員会の宮崎氏より第36回全国支部懇談会を宮崎支部担当で考えて欲しいと打診があった。即答はできないことから持ち帰り、支部の定例登山研究会において慎重に審議した。支部会員数が50名足らずの小支部なので受けるのは難しいとの意見もあったが、過去に開催された全国支部懇談会には宮崎から毎回2桁の会員がお世話になってきたので、恩返しの意味からも受けるべきとの意見に後押しされて申し出を受けることになった。第4回(1986年・昭和61年)の全国支部懇談会を宮崎支部担当で高千穂町・祖母山で開催しているの2回目の担当であった。

開催準備の経緯

2018年9月開催の全国支部長・事務局長合同会議席上において、第36回を宮崎支部が担当することになった旨を報告した。2019年1月24日に準備委員会を発足させ、渉外・会計・会場・宿泊・講演会・懇親会・記念山行・観光・資料作成などの班を設け各班に班長を置いた。支部会員は全員がいずれかの班員となり、皆が主役との認識で支部懇談会を盛り上げようと申し合わせた。その後、準備委員会および役員会において延べ21回の検討を重ね、2019年9月開催の全国支部長・事務局長合同会議で支部懇談会開催の案内用資料を配布した。参加者申し込み期間を2019年12月15日から2020年1月31日、サブテーマを「神話と太陽の国宮崎へどうぞ」として募集したところ宮崎支部会員を除く166名もの予想を超える多数の会員から参加希望が寄せられた。講演は日向の神話および記念山行に選んだ双石山の自然に関する2演題とした。また、懇親会では宮崎の民謡とひょっこり踊りを計画した。ひょっこり踊りについては、担当する会員が何日も練習を積み重ねるなど準備は順調に進み機運も盛り上がっていった。

新型コロナウイルス感染症の拡大

しかし、2月に入ると新型コロナウイルスの脅威が頻繁に報道されるようになり、各種のイベントが中止あるいは延期されるようになった。日本山岳会も会長より3月15日までのイベントは中止するようにとの告知がなされた。そのような中で支部懇談会の5月開催については3月末の状況を見て判断することにしたが、3月末になっても状況は好転しないことから10月に延期することを会員にお伝えした。しかしながら7月に入ると状況はさらに悪くなったことから中止を決定した。

総括

開催は実らなかったが、約1年半にわたる準備期間中、コロナに悩まされ厳しく辛い日々の中で支部会員の情熱はもとより全国の会員の激励に救われることも度々あった。中止を決定した後には残念という言葉に加えてねぎらいの言葉も多く寄せられた。山仲間の素晴らしさや有り難さを改めて実感させられた貴重な時間であった。

宮崎支部開催にご協力いただいた皆様、参加を希望されていた会員の皆様に心より感謝申し上げますとともに、この憎いコロナが一日も早く終息し、来年の東海支部担当の全国支部懇談会が滞りなく実施されることを願ってやまない。

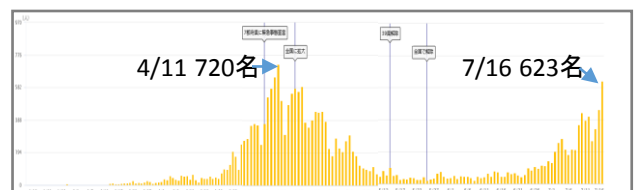
公益社団法人日本山岳会
第36回全国支部懇談会のご案内
【神話と太陽の国宮崎へどうぞ】
全国の会員と交流を深め、日本山岳会の活性化と発展を目指す

主催: 公益社団法人日本山岳会 宮崎支部
期日: 2020年5月16日(土)～17日(日)
宿泊: 宮崎市青島 ANAホリデイ・インリゾート宮崎
 〒889-2162 宮崎県宮崎市青島1丁目16-1
 Tel. 0985-65-1555

参加資格: 日本山岳会会員、準会員および関係者
定員: 150名
参加費用: 20,000円
 1泊2食(懇親会・17日昼弁当・飲み物・バス費用含む)
申込期間: 2019年12月15日～2020年1月31日
申し込み先: 宮崎支部事務局・都甲 登好(トウキョウ)
 〒880-0926 宮崎県宮崎市月見ヶ丘5丁目20-4
 Tel. 0985-53-0150, 090-2584-0312
 E-mail: toko150@miyazaki-catv.ne.jp
 申し込みは支部単位でまとめてお願いします。
 支部に所属していない会員は各自申し込み下さい。
 申し込みは支部事務局・都甲登好

日程
 13:00～受付開始
 15:00～開会式、記念講演会
 17:00～自由行動(入浴等)
 18:30～夕食・懇親会
 20:30～二次会
2日目 5月17日(日)
 7:00～朝食
 8:00～登山等に出発(バスで移動)
 Aコース: 登山・双石山(ぼろいし山、509m)
 ホテルと登山口間はバスで約20分
 双石山登山の行動時間約5時間、15時前後にホテル帰着
 Bコース: 日南海岸散策・青島、端戸神宮などを散策します
 15時前後にホテル帰着・解散予定
 Cコース: 自由行動

募集に用いた資料



新型コロナウイルス新規感染者数の推移 NHK資料より

祝 MRT環境大賞受賞

橋口 三枝子

このたび、宮崎支部会員・石井久夫先生がMRT環境賞を受賞されました。この賞はMRT宮崎放送が毎年郷土宮崎の環境保全を推進する目的でつくられ、その活動のひとつとして創設されたものです。

今回は3つの個人・団体が受賞され、石井先生は教育活動部門で最も優れた環境大賞でした。石井先生の35年にもわたる野鳥の研究、自然環境保全教育、ガイドボランティア、登山道の清掃などの業績が高く評価されたものです。以下、3月5日のMRTテレビ放送で先生がお話された概要を紹介したいと思います。

石井先生は地学を専攻され、永年にわたり県立高校で教鞭をとられました。最後の赴任地であった高原畜産高校で霧島の自然に魅せられ、えびの高原でボランティアの会を設立されました。「えびの高原は、生物の多様性が極めて豊富で、日本の国立公園の中で一番美しいと自分は思っている」と言われるほど、えびの高原を愛してやまない気持ちが伝わってきました。その中でも特に力を入れてこられたのが子供の自然学習教室等です。その中で自然保護の重要性・生き物とのつながりなどについて「一つ断ち切ると後が不完全になることを実感しているので自然の大切さを多くの人に教えていきたい。自分たちも自然の中で生かされていると感じてほしい。そして、自然を享受するためには、やはり自然保護思想を身に付けたいいいのではないかな。そうすることを心がけたいと思っている。」と、とても考えさせられる事を述べられました。そして、受賞の喜びを「本当にびっくりしました。夢のようです」と笑顔で応えておられました。

先生からは、山を歩けば草花・木の名前、野鳥の鳴き声を聞けば鳥の名前や生態系まで懇切丁寧に解説していただき、自然の素晴らしさ、そして山歩きの楽しさを教えていただいております。90歳となられてからは同行していただく機会はやや少なくなりましたが、今も私たちの素晴らしい先生です。先生には、「シリーズ・宮崎の自然」として、宮崎支部報に執筆いただいておりますが、聞くところによりますと、このシリーズは創刊号(1996年・平成8年)から続いているとの事です。これからも、美しい自然を守るためにご教示賜りますようお願い申し上げます。この度の受賞、誠におめでとうございます。



石井先生ご自宅にて。右側は、受賞に際していただかれた置物で「川・山・森」をイメージして作られています。



お祝いに駆け付けた会員と



ノカイドウ

石井先生の自然保護活動の中心となっている霧島山えびの高原に5月上旬に咲くバラ科の植物。世界でこのみ自生する固有種で国の天然記念物になっている。

＜ 報告 ＞

石井先生より受賞賞金の中から支部へ多額の寄付をいただきました。心よりお礼申し上げます。使途については、会員増強の基金として使わせていただくことを6月の定例山研にて皆様から賛同を得ました。

都甲さんに感謝

荒武 八起

4月4日、都甲さんが逝去された。享年77歳、あまりにも早い旅立ちであった。3歳年上の心優しい兄のような存在であった。25年以上もの永い付き合いの中で、声を荒げたり、怒った姿を一度も見た事がない。常に沈着冷静で几帳面な仕事ぶりは皆様から高く評価され、副支部長を含め事務局長として10年以上もの長年にわたり重責を全うされた。都甲さんの尽力があったからこそ、支部会員は安心して、それぞれの役目が果たせたのだと心より感謝している。告別式において弔辞を読んだが、悲しみが込み上げ言葉にならなかった。

昨年の10月16日の午後、都甲さんから「リンパ節が腫れたので、県病院で診てもらったら、成人・・・病と言われた」と何時もと変わらないトーンでの電話をいただいた。仕事柄、この病気の予後の悪さを知っていたので呆然とし、誤診であればひとすべ願った。診断後、しばらく入院され、その後は通院しながら治療を受けられ、普段どおりに元気に明るく行動されていた。しかし、今思うと我々に心配かけまいと懸命に耐えておられたのだろう。6ヶ月近い闘病の中で、「抗がん剤を打った後は2-3日つらい」と聞いただけで本当に前向きに頑張られた。

3月25日に再入院の電話を頂いたので翌日見舞いに行ったが、コロナの影響で面会できなかった。この憎いコロナのせいで身内の方さえも思うように面会が出来なかったと聞いている。そんな中、都甲さんはご家族の事が如何に気がかりだったろうか、加えて、思うようにならない自分の体を如何にもどかしく思われたか察すると胸が痛くなる。コロナが収まったら、またゆっくり話せると思っていたが、このように急な別れになろうとは誠に残念でならない。

支部事業委員会から全国支部懇を宮崎へと打診された折、「無理」との意見もあったが、「これまでお世話になった宮崎支部への恩返しと我々の節目として受けましょう」と真っ先に賛同されたのは都甲さんであった。それが果たせぬまま逝く事がどれほど心残りであったろう。

「5月で公務から手を引く」と聞いていたので、これからは心おきなく一緒に山に行けると楽しみにしていたが、それが叶わぬ今、悲しみと失望のどん底にいる。しかし、この悲しみを乗り越え、都甲さんの遺志をしっかりと受け継ぎ、宮崎支部の発展に会員一丸となって、取り組んで行くことが都甲さんへの恩返しになると信じ、心に鞭を打ちつつ歩かねばならない。

追悼

谷口 敏子

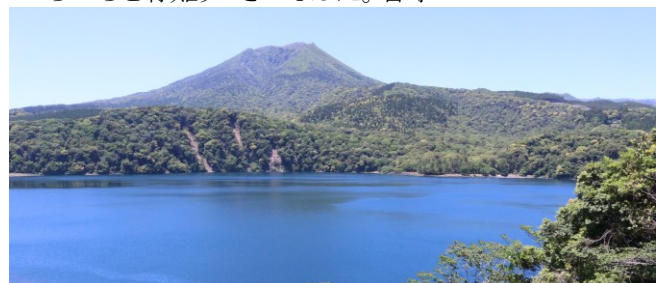
都甲さん、こんなに早く永遠のお別れをするなど、思いもしませんでした。一報を受けて、私は驚愕と悲しみに涙が止まらず、一時間、ただぼーっと泣きくれました。

思えば、私たち夫婦共々、山岳会入会からずっとどれだけの長い時間を一緒に過ごしたことでしょう。私たちの山岳会はこれまであなたなしでは成り立ちませんでした。大谷・井野元両支部長の下での事務局長として長い間、支部の面倒を一手に引受け、支え、そして、育ててくださいました。いやかな顔ひとつせず、みんなに優しく、面倒見の良さは誰でも出来ることではありませんでした。荒武支部長になってから、往時からの名コンビとして楽しい日々でした。それがずっと続くはずでした。そして、わが支部の総決算として迎える「全国支部懇談会」は、まさにあなたのこれまでの総仕上げの花道になるはずでした。あなたを失っているいろいろ考えると、私達はこれまでどれだけのことをあなたに甘え頼ってきたか・・・それがあなたを蝕むことになったのではないかと悔やまれてなりません。

はじめてあなたの病気の兆しに気付いたのは昨年10月9日、支部報の校正をしていた時でした。右顎の下にアメ玉ほどのしこりを尋ねると「歯が痛いからよ」と笑ってましたね・・・この時からわずか6ヶ月であなたを奪った病魔が本当に憎いです。病魔と戦いながら支部の仕事も会社の仕事も精いっぱいこなし続けてこられたあなたは、やっぱり超人であり、善人でした。

知らせを受けてから他支部の何人かの方から電話をいただきました。「全国支部懇で会えるのを楽しみにしていた」と皆、泣いておられました。あなたがどんなに長い間、他支部の方々と深い繋がりを持って来られたか、改めて思い知りました。

都甲さん、私たちも遠からず、あなたのそばに行きます。また、一緒に山登りしましょう！それまで、ゆっくり休んで待っていて下さいね。本当にいろいろと有難うございました。合掌



御池と高千穂の峰

追悼

3月27日午後1時、都甲さんから私の携帯に電話がかかった。体調が悪くなったので入院しましたという内容だった。話し方はいつもの通りだったが、声がかすれているところが少し気になった。体調がよくないことは分かっていたが、まさか8日後に亡くなるとは思ってもいなかった。5月の支部懇談会で会えることを楽しみにしていたので、あの笑顔がもう見られないと思うと残念でならない。

都甲さんと初めて会ったのは2005年2月に東京で開催された支部事務局担当者会議の席だった。会議の始まる前に当時、熊本支部事務局だった私に就任の挨拶をされたが、純朴で誠実そうな方だとの印象をもったことを今でも覚えている。その後は俗にウマが合うというのか、妙に気が合って付き合いが始まった。両支部では支部間交流のひとつとして交流登山が続いているが、そもそもは二人の付き合いが発端だった。その後、わけあって私が熊本支部を離れたため都甲さんの片肺飛行となり、迷惑をかけてしまったようで申し訳なかった。

付き合いは山だけでなく下界でも続いた。2010年8月には都甲ご夫妻と奥様の姉様ご夫妻で熊本へ来訪された。夏休みを利用して毎年、テーマを決めて各地へ旅行しているとかで、その年は細川家と田原坂の史跡見学に来られた。私と家内で市内に点在する細川家関係の旧跡や金峰山を案内し、その夜は細川家の伝来料理を楽しんだ。翌日は、それこそ一日中、西南戦争の戦跡を駆け巡った。猛暑の中、汗を

田上 敏行 (元熊本支部事務局長)

拭きながら歩き回ったことが懐かしく思い出される。

都甲さんは、都甲姓をもつ全国の親睦団体ある「全国都甲の会」に所属し、2013年5月に熊本へ26人の仲間と来



2018年12月 JAC年次晩餐会

訪して森鷗外の短編小説で知られる、都甲太兵衛に関する史跡、資料を見学された。のちに私も手伝いになればと、古地図から太兵衛の住居を見つけ出し現在地を探し当て、都甲さんに報告書を送ったところ、ことのほか喜んでもらった。2017年に太兵衛の住居跡を確かめるべく来訪されたが、住居跡に立った都甲さんの顔は実に感慨深そうだった。

最後に会ったのは2018年12月の年次晩餐会の席だった。壇上で永年会員章を授与された私が都甲さんのテーブルに挨拶に行くと、とても喜んでもらった。ところが、このときが都甲さんと会った最後になってしまうとは思ってもよらなかった。都甲さんとの連絡は電話と手紙が主だった。自分で撮った写真をハガキにして、よく送ってくれた。ほとんど山や草花の写真であったが、2月のハガキはいつも勤務先の産経大の緋寒桜の写真だった。そして最後のハガキも、また緋寒桜だった。都甲さんとの出会いがなかったら、私の人生はもっと淋しいものだったろう。



2015年6月6日栗野岳 都甲さんを中心に

【1月定例山行】 大島探索(日南市) 1月13日(月)

船で無人島に渡る

1月13日「成人の日」快晴。産経大の駐車場に集合した18名は車4台に分乗して日南へ向けて出発した。日南海岸をドライブ。「目井津港」到着。島へは市営の旅客船で渡る。13分で「竹の尻港」に到着。大島は日向灘の沖合3キロメートルに位置し群青の海に奇岩が点在する。釣り人を見かける。昭和30年から40年代の漁の最盛期には約60軒の人家、360人が生活されていたという。しかし5年前に無人島になったようだ。

歩き始めて驚く。道は舗装され、沿道は草刈りがきれいにされている。海が見える緩いアップダウンのある遊歩道はハイビスカスの花々、ツワブキの黄花、群生した野菊が楽しませてくれた。鞍埼灯台まで約40分、白い灯台は日本初の無筋コンクリート造り、明治17年に初点灯、今も海を見守り続けている。

昼食は島の中央部にあるアドベンチャーキャビンを利用する。ここは1980年に閉校した大島小学校の校舎を改装したもの。立派なキャビンや2棟のコテージもある。次に訪れる機会があれば宿泊し島全体を歩いてみたい。今にも人が飛び出して来そうなきれいな廃墟もあった。他にも何か見つかりそうな予感さえする。また途中では、親の代にミカンを栽培されていたというご夫婦に出会う。自然そのままのミカン「どうぞ」と言われる。初体験、わくわくしながらもぎ取る。さっそくお昼のデザート。爽やかで甘みの濃い味だった。

港まではのんびり歩いても20分。船が来るまで透明な青い海にゆうゆうと泳ぐ魚を見ていて飽きない。次回は釣りも面白そうだ。今回のハイキングは、正月からの運動不足を解消した楽しいコースであった。

清水弘子



<参加者18名>

清水弘子・清家順子・谷口敏子・服部澄子・栗林淳子・蔵屋とよ・中武照子・荒武八起・日高研二・乾正太郎・末永軍朗・谷口菊美・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・畑島良一・一般参加(栗林忠信・佐藤)



大島めぐり

谷口敏子(一三〇六二)

無人島となりし大島めぐりゆき

廃屋に残るくらし寂しむ

島と家捨てたる島民の痛みとも

ハイビスカスの赤き血の色

今もなほ島に通ひて農をする

とどさんに呼ばる「みかん持つけ」と

海中覗き子どものやうに魚探す

埠頭に船を待つひとときを

島おこしのプロジェクトの記事見付く

ふたたび訪はむ「あけぼの3」で

【6月定例山行】 韓国岳 1,700m 6月7日(日)

ミヤマキリシマ満開の山行

新型コロナウイルス問題の渦中、山行自粛が緩和された6月初旬、梅雨の中の晴れ間に恵まれ登山日和となった。えびの高原に向かう途中、大浪池の登山口周辺の各駐車スペースにはすでに九州一円から訪れた多くの車(約50台)が停まっていた。また、初夏を思わせるような数種類の蝉にぎやかに鳴いていた。後で調べると、ハルゼミ、エゾハルゼミなどの鳴き声だったようだ。

えびの高原に到着すると、駐車場の受付の男性に「ミヤマキリシマがピークですよ」と声をかけられ、案の定、駐車場は混みあっていた。準備体操、「密を避けて数名ずつのグループで」の注意のあと登山コース組と高原散策コース組に別れ散策コースのグループも3～5合目まで一緒に楽しめた。

新燃岳の”噴火警戒レベル2”の中で、設けられている登山コースに火山ガス(二酸化硫黄)に注意と書いた看板が目にとまり自然相手に改めて気が引き締まる。スタートしてしばらくは歩きやすい遊歩道、林道の向こうに聞こえるゴーゴーと鳴る活火山の音を感じながら徐々に樹林帯の登山道に入った。息を切らしながら岩の多い登山道を進むと木々の隙間から硫黄山の真っ白な姿が見える。登りが続き音を上げそうになった頃、中間地点の5合目でようやくお目当てのミヤマキリシマをゆっくり眺める余裕ができた。ここから山頂までは背丈を超える木はなくなりゴロゴロとした噴石の登りが続き苦戦しながらも時々見下ろす眼下の景色に体は軽くなった気がした。

蔵屋 とよ

11時30分、山頂に到着。空は薄曇りで眺望は100%ではなかったが気分爽快。火口の淵に立つと足がすくむが、それよりも頂上の虫の多さに驚いた。山頂での涼しい風に思わず上着を脱いだが大ブヨ(おそらく)に刺されていつまでも痒い、素肌を出してはいけないうことを実感する。下山途中はトレランの若者やさっきまでの自分の姿と同じように汗を拭きながら頂上を目指す登山者に出会う。

13時45分えびの高原駐車場に無事帰還、散策コースのグループの方々と合流。平田さんよりクローブヒッチ(巻き結び)、もやい結び、8の字結びなどの実演講習をしていた。



山頂付近火口壁



下山後、ロープワーク



〈コースタイム〉

大淀川ゴルフ場6:30発～えびの高原駐車場9:00着(準備体操などの後、出発)～韓国岳山頂11:30(昼食)～えびの高原駐車場13:45～大淀川ゴルフ場着16:50(解散)

〈参加者 23名〉

谷口敏子、多田登美子、服部澄子、栗林淳子、橋口三枝子、蔵屋とよ、高橋節代、日高恵子、日高キヨ子、米満美保、白賀智子、竹田裕見子、荒武八起、日高研二、武田芳雄、多田周廣、服部岩男、畑島良一、橋口光博、四宮林三、平田五男、川越政則、深田光生

残雪期の谷川天神尾根

令和2年3月28日～29日

畑島良一

新型コロナウイルス影響と天候悪化が予想されるため道路は空いている。当然SAはがらすき。谷川岳往復は日帰りコースではあるが、天幕生活を満喫するため天神尾根を午後出発。

スキーヤーも少ない。コースエリアを外れた場所では雪上訓練するパーティーが見受けられる。積雪は2m程度。時期によっては各尾根から雪崩の音が聞こえるが安定しているらしい。

尾根上は3～4mの積雪。斜面での雪洞痕は見受けられない。雪を掘るパーティーも少なくなっている。狭い尾根上を避けトラバースを数回するが腰まで潜る。途中岩場が露出しフィックスロープと微妙なアイゼンワークで下降する。帰路は苦労した。

熊穴の小屋は屋根が露出し何とか潜り込めた。我々だけの天国である。小屋内に天幕を張り宿泊・食事セット。当然アルコールもセット。夜から本格的に降雪。関東平野部も積もっているらしい。明日が心配であった。

50cm程度新たに積もった。トレースは無く、雪崩を危惧し登頂を断念し下山。腰までのラッセルと荷の重さできつい。アイゼンも団子状態になり横滑り数度。スノーボー・スノシューグループ数組と出会う。情報交換。互いに安全を祈願。登頂は出来なかったが、かみさんを含め皆満足した様であった。

装備概要:天幕・寝袋・エアマット・10又は12本アイゼン・ストック・コンロ3台・炊事用具一式・細ザイル・冬用衣類・その他冬用小物

JAC同好会麗山会 参加者4名



「能古島」探訪記

11月21日～22日

久峯 慧子

11月21日～22日に5人の友人と「能古島」を訪れた。1日目は九州国際博物館で開催中の「三国志・曹操展」を見学。最近の三国志ブームを反映してか平日にもかかわらず大勢の人で賑わっていた。3ヶ月間の展示なので九州だけでもどの位の人が来館するのだろうと興味がわいた。4時ごろ博物館を後にして電車を乗り継いで、「能古島」フェリー乗り場に到着。以前からとても興味があつた島である。今は「花の島」として有名な島だが、私は放浪の作家・檀一雄が終の住処として選んだ島を是非訪れてみたいと思っていた。釣り客が多いこの島に宿は民宿1軒のみ。昔はさぞや賑わっていただろうと思わせる大きな宿を今は家族だけで経営している。夕食は新鮮な魚がとても美味しかった。翌朝まず「檀一雄の文学碑」を訪ねた。〈思索の道〉と名付けられたうっそうと樹木の茂る薄暗い山道の途中にその碑はあった。碑文「モグリ笛いく夜もがらせ花二逢はん」という辞世の句が、苔むした石碑に彫られていた。彼の心中などに思いを寄せる才能などないが「モグリ笛」ということばに強く惹かれた。

鈴つけて登校する子ら能古島

猪避けと元気に応ふ

能古島と終の住処と檀一雄

辞世の句の碑苔むして建つ

うす暗き「思索の森」と通り抜け

輝るミカンの森に出会いぬ

古墳あり小中学校教会も

小さな島の大きな世界

登下校の子らは教師に送らるる

船着き場にて「明日も此処で」と



「能古博物館」にある「檀一雄歌碑」歌碑には、檀が妻・律子の死を悼んで詠んだ歌「つくづくと櫛(はじ)の葉朱く染みゆけど下照る妹の有りと云はなく」が刻まれている

大展望ひらける霊山の山頂へ 令和元年5月25～26日

武田 芳雄

令和元年5月25-26日「第35回全国支部懇談会」が栃木県の日光で開催された。当日会場のホテルに向かう途中に「男体山」の登山口を通過し心が弾んだ。ここへ来る前からどうしても登りたいと強く思い計画していたが、登れば宮崎支部のバスには間に合わない。支部に相談したところ、自分の計画どおりにして最後に羽田空港で合流すれば良いという仲間の好意で登頂することにする。ホテルで支部会員のバスを見送った後、登山口行きのバスを待っていると、「英国大使館」に行くという栃木支部の方に登山口まで車で送ってもらった。

コースは二通りあるが、二荒山神社中宮寺祠からの表登山道を登ることにした。社務所から登拝門をくぐり急坂をひたすら登る。間もなく舗装された林道に飛び出す。ここが三合目。林道を道なりに進んで行くと四合目。弁当を食べ振り返ると中禅寺湖全体や周辺の山々が見える。皆が登っているのはあの辺かなと想像する。林道を離れて鳥居をくぐると再び樹林帯の道となる。樹林帯をいったん抜けると五合目に出る。五合目は開けていてここからは中禅寺湖が見渡せる。五合目から再び樹林帯を登る。七合目迄苦しい登りが続く。八合目からはガレ場が続くので登りにくいが、頑張ると男体山の頂上に着く。山頂は広々としており登山者も多い。一等三角点の山だけあって展望は雄大だ。近隣の日光連山はもちろん上信越の山々や那須連山、会津の山々が見渡せる。登ってきてよかった。下山は往路を下ったが急坂の連続で、自分も二度ほど滑りかけたが、慎重に下った。

下山後は一旦、新宿に行きそこから山梨に向かい宿で合流しようと思っていたところ、登山口に畑島会員と奥様が待っておられた。高速を乗り継ぎ、海老名市の自宅に泊めてくださることになった。とても有難く畑島さんに感謝したい。翌日早朝大菩薩嶺に向け出発。登山口で支部のバスを待つて皆と合流した。大菩薩嶺は以前に登ったが、今回は縦走するコースで快晴のなか富士山を眺めながら心地よい登山であった。畑島会員とはここで別れ、支部のバスに乗り行動を共にする。翌日の三ッ峠山は雨となり、富士山を望むことは出来なかった。

今回の山行がスムーズに行動できたことは、畑島会員のおかげであり心から感謝したい。有難うございました。



男体山(なんたいさん)は栃木県日光市にある標高2,486mの火山。山体は日光国立公園に属し、日本百名山の一つ(Wikipediaより転載)



男体山山頂 2,486m



眼下に中禅寺湖

【自然保護委員会】 「森づくり活動」 野尻の森育林作業 2月23日(日)

前原満之

担当、前原が退院間もないこともあり、アクセスのよくない田野の森を回避し、今回は野尻の森の育林作業を実施した。昨年2月に引き続いての実施である。



下見に来た時、カヤが繁茂し山に降りて見ることができなかった。まずはカヤを切り、作業道を確認する。



側溝に支障の出そうなアラカシを有木さんがチェーンソーで切り、その枝処理を行う。後のメンバーは繁茂する笹切り等行い、スッキリになった。



休憩は、有木さん差し入れのみかん、土佐文旦とはるかに、有木さん実家からぜんざい（餅入り）。昼は橋口さんお手製のシチュウが美味い！



〈参加者5名〉

橋口三枝子・末永軍朗・四宮林三・武田芳雄・前原満之・有木 重昭(元会員)

令和元年度年次晚餐会展示 報告

令和元年度晚餐会は12月7日 京王プラザホテルで開催されたが、それに合わせて「日本山岳会の自然保護活動の歴史と今」と題した催しがあり、全国各支部が寄せたパネルが展示された。晚餐会に出席された陛下も晚餐会の前に見学された。

各支部とも植林などの森づくりに取り組んでいるが、それに加えて、シカの食被害調査・放射能汚染調査・イヌワシの生態調査・水環境調査・山トイレ問題など様々な課題に取り組んでおられる様子が伺えた。日本山岳会自然保護活動指針の理念にあるように、登山行為は時に自然破壊や干渉を伴うことを認識し、地球環境をこれ以上は悪化させないように、健全な生態系の維持や復元に貢献すべきであろう。(文責・荒武)



【高千穂の峰の「天の逆鉾」は、いつ・誰が・何の為に・建てたか】の こぼれ話

多田周廣

高千穂の峰に登ったのは、何時ごろのことであつたろうか。中学時代、双石山に登り始めた頃、宮崎市内から見る高千穂の峰の勇姿は私にはとても登れる山ではなかった。高校時代山好きの仲間二三人が高千穂登山をやろうということになった。どのようにして山の麓まで行くのだ、から始まり 当時国鉄日豊本線で宮崎駅から霧島神宮駅で下車、バスで霧島神宮へ行き、そこから徒歩で高千穂の峰をめざした記憶がある。その登山道の長いこと。朝の一番列車、帰り最終列車には間に合うように下山しなければならない、その緊迫したなかで登頂した喜び、好天にも恵まれ360度の絶景、来た甲斐があつた。そこで見たものは、他の山には無い異様な「逆鉾」これは何だとこの時からこの謎解きははじまった。だがその後、いつしか忘れてしまった。ところが、最近又、気になり始めた。下記はあちこちから集めた記録の拾い読みである。

○「イザナギノミコト・イザナミノミコト」が天の浮島から霧の海を見下ろして島のように見えたところに剣を突き刺した。

○「天孫ニニギノミコト」が高天原から天降るとき持って降りた剣を逆さまに建てた。逆さまの意味はサカ木「榊」とか「栄える」の意味が共通してある。過去には下記の人物が高千穂の峰に登るか、麓まで旅して見聞・記録している。

○新井白石(1657～1725) 江戸中期の政治家・朱子学者：天孫が天降りの時、これをもつて標しとされた、いわゆる国柱である。当時の鉾は広矛で幅の広い作りの矛である。

○橘南谿(1749～1805) 伊勢の国 久居藩の儒医：日向国を訪れ古事記・日本書紀の「イザナギノミコト・イザナミノミコト」の物語を語っている。

○古河古松軒 備中国岡田藩 地理・考古学者：1783年大恐慌時、九州を巡遊し「イザナギノミコト・イザナミノミコト」でもなく、そのまだ古代に遡った神の名を挙げている。だが地元の人から口止めされながら、実際は島津義久が建てたと教えられた。

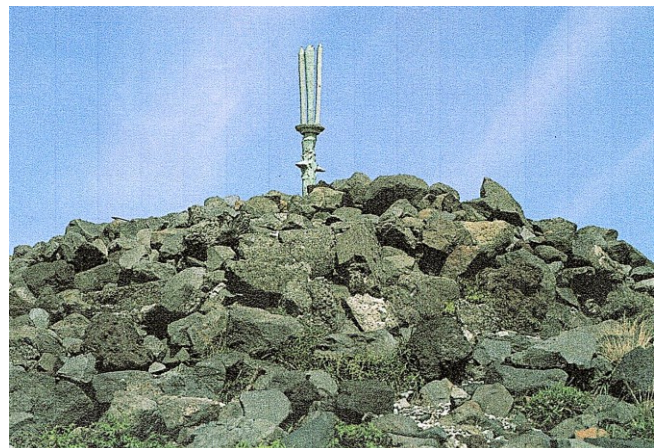
○木下逸雲 長崎の南画家：1828年霧島登山記の中で鉾の長さは八九尺ばかりあり先の方に横手あり十字の形の如し、又同じ様なる鉾、今一つ建つるは近世の島津義久朝臣(あそん)の新造りて建添えたるなり、又、鹿児島人池田某といいし者が御神の信仰が厚く建てたとの伝えもあるがどれが本当か判らない
○八田知紀(1799～1873)薩摩国学者 和歌者 日向伊東氏の建立説：島津氏と伊東氏との対立 1572年木崎原の戦いで伊東氏は島津氏に敗北、それまでは伊東氏が霧島山麓を支配していたがその後、勝って領土を得た島津が建てた。それまでは伊東氏が建てた鉾があつた。文政・天保時代には鉾の回りに石を積みあぐればご利益ありと伝えられた。

大正五年、干ばつが続き地元の農民達が高千穂山頂に登り逆鉾を揺り動かしたら雨が降った。天気の良い日が続くと連日数十人もの雨乞いの祈祷者が押し寄せ皆で揺り動かすので警察は鉾を元の形に建て直し周囲に鉄柵を作り「器物損壊と不敬罪」で取り締まったが、ある年は24名を検挙した。地元では逆鉾は雨乞いの対象として水神として崇められた。

いずれにしても 鉾の形も昔と現代とでは異なる。坂本竜馬が高千穂の峰に登頂し、逆鉾を揺り動かした時も現在の形の鉾のようであり、特に今の逆鉾が建てられたのは1800年代中期以降か？



霊峰・高千穂の峰 この山頂に逆鉾はある



天の逆鉾 梅原 猛 著「天皇家のふるさと日向をゆく」から転載

「牛の峠」 子午線標を訪ねて

永峯 麗子

「一等三角点百もんどう」(発行者:一等三角点研究会) p.57付表3に記載されている「天測点と子午線標一覧表」は、不思議なものとして時々見ていた。わが宮崎県には唯一「牛の峠」より真北に子午線標が現存しているとある。

平成30年10月27～28日に開催された「第23回秋季例会(五在所ノ峯658.31m、点名:五在所森)」に参加して、天測点や子午線標を探訪する貴重な体験をした。そのとき五在所森から北へ4.5km、柏木山の子午線標に触れたときの言うに言われない感動は、いまだに忘れない。是まで何回か登った「牛の峠918.03m(点名:牛の峠)」一等三角点のこと。三角点の近くにある八角形のコンクリート柱(高さ:1.25m、直径:68cm、胴周り:2.32m)の天測点は天体観測をした所ぐらいで、精しい目的は知らなかった。

秋季例会より帰ってから牛の峠子午線標をこの目で見たくなり、高野正巳様をお願いして一連の資料をお送り頂き、県立図書館にて私なりに資料も集め、一気に牛の峠子午線標探訪は具体化した。

牛の峠より真北6km。所在地:北諸県郡三股町大字長田字出合。北緯:31度43分25.6秒。東経:131度9分31.4秒。標高:390m 細目山・地目・山林・私有地。

点の記の順路を読めば頂上まで林道があり、車が入ることになっている。林道の現状は、もともと何よりも所有者の了解を得なければならなかった。電話をしたり手紙も書いたが埒があかなかったので、所有者の在宅を確かめて平成31年2月21日に宮崎駅より電車にて三股駅で下車し、所有者宅に向かった。細目山の三角点に行きたいと申し上げたら、実はうち

の山にそのようなものがあり、これは何かだろうと思って大切に管理しているので、これからご案内しようと言われ、山林業を営む所有者、社員二人と私の4人で、しかもこの会社の車で細目山に向かった。後日、都甲さんと行くときの下調べのつもりだった私は、急なこの展開に驚いた。

標高差は200mくらいで林道は荒れていて倒木もあり、四駆でないと無理かも知れないと思った。点の記の順路に大体抛り頂上付近で車を降り、「これです」と言われた標柱を見て、私はびっくりした。それは三角点ではなく、子午線標そのものだった。私は嬉しさの余り、その子午線標に抱きついた。山全体は杉山で所々に雑木林があり、植林間もない所もあった。子午線標は私よりやや低く、牛の峠は山の樹林で見通せなかった。山靴、山登り用の服装、リュックなどは用意していたが、準備は完全でなく、メジャーすら忘れて子午線標を測ることができなかった。しかし、宮崎駅で買ったカメラを持っていたのでそのカメラで撮影し後日現像して焼き付けたが、残念ながら子午線標の映像は暗く不鮮明だった。多分フラッシュを焚かなかったからであろうと後で思った。

この近くにあったであろう細目山の本点と偏心点については、後日都甲さんと行って確認し、この記録に補足文を追加しなければならない。とにかく細目山の山頂には牛の峠子午線標が美しく健気に立っていた。所有者にお礼を申し上げて、帰りの電車に乗った。

(一等三角点研究会 会報 聳嶺 新世紀第十二号 から転載)



日南市上熊隧道付近から望む牛の峠南東面
大谷優著 みやざき百山より



牛の峠子午線標
(右の人はこの山の所有者)

支部行事予定(7月～12月) [事務局だより]

月 日	行 事 名	標高、他	備 考
7月12日(日)	定例山行・えびの岳	1,292m	霧島山系
7月26日(日)	猪八重溪谷	散策	北郷町
8月10日(月)	山の日関連行事	双石山509m	清武町
8月15日(土)	定例山行・クルソン峽	散策	えびの市
9月6日(日)	定例山行・尾鈴山	1,405m	都農町/木城町
11月2-3日(月火)	第36回宮崎ウエストン祭	記念山行未定	高千穂町
11月21日(土)	白坂山/向坂山	1,684m/1,646m	五ヶ瀬町
12月12日(土)	清掃登山・双石山	登山道周辺	清武町

支部会務報告(1月～7月)

月 日	事業・行事	開催場所	人員	備 考
1.9	第250回定例登山研究会	宮崎市中心公民館	21	
1.9	定例役員会	宮崎市中心公民館	8	
1.13	1月定例山行	大島探索	18	
1.29	臨時役員会	市民活動センター	10	
2.6	第251回定例登山研究会	宮崎市中心公民館	20	
2.6	定例役員会	宮崎市中心公民館	8	
2.27	臨時役員会	市民活動センター	11	
3.1	第36回諸塚山山開き	諸塚村		コロナの影響で中止
3.5	第252回定例登山研究会	宮崎市中心公民館	22	
3.5	定例役員会	宮崎市中心公民館	8	
3.14	臨時役員会	頼田宅	11	
3.31	臨時役員会	谷口総務委員長宅	12	
4.2	定例登山研究会			コロナの影響で中止
4.25	新入会員歓迎登山	遠見場山		コロナの影響で中止
4.26	臨時役員会	頼田宅	12	
5.7	定例登山研究会			コロナの影響で中止
5.10	5月定例山行	白鳥山/時雨岳		コロナの影響で中止
5.23	5月定例山行	大幡山		荒天のため中止
6.4	第253回定例登山研究会	宮崎市中心公民館	18	
6.4	定例役員会	宮崎市中心公民館	8	
6.7	6月定例山行	韓国岳	23	
7.2	第254回定例登山研究会	宮崎市中心公民館	16	
7.2	定例役員会	宮崎市中心公民館	8	

事務局からのお知らせ

グループ登山の届け出の厳守：グループ登山の届出が完全ではないようです。グループで登山される時は、必ず事前に登山計画書を作成し事務局に提出して下さい。

編集後記

2月ごろから新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、色々なイベントや行事が中止となりました。令和2年度支部総会も書面表決となりました。全国支部懇談会も5月から10月へ延期ということも検討されましたが中止となりました。4月には都甲さんが亡くなられ、支部会員はじめ全国の仲間から惜しむことが寄せられました。本当に長い間お世話になりました。一方で、石井先生がMRT環境大賞を受賞されるという嬉しいニュースもありました。支部報72号は4月発行の予定でしたが、コロナ禍を含め様々な事情により7月発行分との合併号になりました。コロナウイルスの終息はまだ見えませんが、感染予防に配慮しつつ山登りも楽しみたいと思います。(拵)

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 第72号

発行責任者：荒武 八起

編集委員：久峯 慧子(責任者)、拵 恵子、谷口 敏子、
多田 登美子

事務局：日高研二

〒880-0933 宮崎市花山手東2丁目17-11

Tel, Fax 0985-52-6685, 080-1766-1207

E-mail: k-hidaka@har.bbiq.jp

口座：ゆうちょ銀行 記号17330-2 番号09336371

名義人：(社)日本山岳会宮崎支部